

# 校長会広報219号

発行・一般財団法人 宮崎県校長会館  
編集・宮崎県校長会  
広報委員会



## 「N校長先生の思い」

日之影町教育委員会 教育長 橋本 範 憲

N校長は、令和2年5月23日に亡くなった。4月に60歳になったばかりだった。長い教師生活の最後の一年、校長としてやりたいことがまだまだたくさんあったことだろう。心筋梗塞だった。その日の朝、いつもの通り、学校下の国道の交差点で安全指導をし、最後の登校班の子ども達と一緒に話しながら学校に戻った。その後、職員室で先生たちと楽しく会話し、それから校長室に戻って仕事をしていた。しばらくして教頭が用事で校長室に入って異変に気づき、すぐに救急車を呼んだ。その後、ドクターヘリで県病院へ運ばれ、手術をしたが、意識が戻ることはなかった。

私とN校長とは、これまでいろいろなところで縁があった。初任校が同じで、2年間一緒に勤めた仲間だった。彼は明るく優しい青年教師で、サッカー少年団の指導もしていた。その後異動で離れるが、共通の友人もいて時々会った。その後、私が中学校校長になった時、彼は校区内の小学校教頭だった。そして、私が日之影町の教育長になったとき、彼もその小学校の校長として赴任してきた。

私と彼は、教育長と校長という立場からいろいろな課題について相談することがあったが、最後はいつも彼の「ようし、頑張るぞ。」という言葉でまとまった。また彼は、町と郡の校長会の会長でもあり、県校長会との話合いや他の校長からの相談など、いろいろと忙しかったが、それでも一番は、自分の学校の子供達だった。「今日で何日間無欠席が続いています。」「今日は〇〇さんが学校に来ました。」「〇〇さんがこんなことができるようになりました。」など嬉しそうに話してくれた。彼の言葉や行動には子供達への愛がひしひしと伝わってきた。学校の職員についても、一人一人のことをよく気にかけていた。体調の悪い先生がいたら無理しないでいいですよと安心させ、新任の先生には適切なアド

バイスをし、異動や退職した職員にもずっと気にかけて、声かけなどをしていた。保護者や地域についても、「PTAがこういうことをやってくれました。」「地域の方が子どもの挨拶を褒めてくれました。」と嬉しそうに報告してくれた。

「うちの子ども達はすごいです。」「うちの先生達はすごいです。」「うちの保護者はすごいです。」私がいつも彼から聞いていた言葉だ。その言葉で、どれほどの子ども達が励まされたことか。学校の先生方がどれほどやる気が出たことか。保護者の皆さんがどれほど学校を誇りに思ったことか。土日も奥様と二人で、校庭の草引きをしたり、花を植えたりしている姿をよく見かけた。奥様も地域の中に入り、親しい人が多かった。だから彼の葬儀の際は、教育関係者だけでなく、地域の方もたくさん別れを惜しんで来てくれていた。

私は今でも校長室のN校長の写真を見ると、「自分はちゃんとやっているか」と気合いが入るし、彼の笑顔を見て「ちょっと力みすぎていないか」と気持ちもちが穏やかになる。

県内の校長先生方、人生は何があるか分からない。文科省が言うことも大事。県教委や市町村教委が言うことも大事。校長会も大事。しかし、学校のこと、子どものことが一番である。校長として、子ども達、職員、保護者、地域に何ができるだろうか。大きなことができるわけではない。この先ずっと、校長を続けるわけでもない。校長になれば、後はゴールが見えてくる。それほど、時間は長くない。あっという間だ。自分は何のために校長になったのか。何のために自分は教員になったのか。子ども達一人一人に愛情をもち、心を込め、幸せを願って、学校の仲間と共に丁寧に対応していくしかないのではないのか。

校長職は激務である。責任は極めて大きく重い。健康に気をつけ、職務に励んでほしい。

### 「キャリアデザイン指南ください」

西都市立妻中学校 宮崎 誠

校長となり2年目を迎えている。1年目見えなかったことが、少しは見えるようになり、解決すべき課題が積み重なっている。解決に向けて考え行動しているつもりだが、なかなか「解決済み」とはならないものである。改めてこの職の難しさや責任の重さを感じている。

さて、この「会員コーナー」の執筆をするにあたり、何を書いたものか困ってしまった。個人の立場で自由に・・・と言われたものの、思いつくのは学校教育をめぐる課題についてばかりで、考えていて自分で嫌になってしまった。何か見通しの明るい内容はないものだろうか・・・考えれば考えるほど、明るい話題が少ないと感じた。

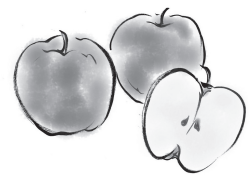
個人的な話で申し訳ないのであるが、今年度4月に長男が採用され、中学校教諭として働いている。この長男が教職に就きたい、教育学部に行きたいと言いだした時に、「学校の厳しさを分かっていない。生徒のために自分の時間を犠牲にして働いている先生は多くいるが、褒められることは滅多になく、批判されることばかりで、やる気のある先生ほど削られ疲れ果てていく。中途半端な覚悟でやれる仕事ではない。」と大いに反対したことを覚えている。同時に自分が人生をかけてやってきた仕事を身内に勧

められないことについて残念だと思ったし、若い世代のためにも教職をとりまく環境を少しでもよくしたいと思ったものだ。

それから・・・自分なりに「学校における働き方改革」を推進してきたものの、教職をとりまく環境は依然として課題が多く、教員・講師不足が象徴するように「選ばれない職業」となってしまった感がある。深刻な問題である。

本校にも若手・中堅・ベテランと多くの教職員がいる。教職員評価制度等を活用しながら、それぞれのキャリアデザイン形成・実現のために助言しているが、学校の在り方や教職員としての在り方・働き方が変わっていくだろうことを思うと、自分の錆びた感覚や経験からの「助言」でいいのだろうか、他の校長先生方はどうしているのだろうかと思うことしきりである。

退職年齢の引き上げにより、私も制度上65歳まで働くこととなった。自分の働き方についてもちゃんと考えなければならぬ。私のキャリアデザインについて、どなたか御指南ください。



### 人を大切にする組織

新富町立新田中学校 池川 由美

先日、結婚式に出席した。コロナの収束も見えない中ででの式の実施に御両親もすっきりしないものがあつたようである。そもそも、主役である新郎新婦が当日参加できるという保障もない中で結婚式を実施するという判断をするのは難しかったらと思う。

結婚式当日。多くの方々が出席して下さっていたことにまずホッとした。職場からも多くの方が来て下さっていた。その職場の上司の祝辞が未だに忘れられない。

「まず、〇〇さんをこのような人間に育てていただいた御両親に感謝申し上げます。〇〇さんは、本日の結婚式に私たちを招待しても良かったのかどうかと昨日まで悩んでおりました。私どもの会社は社員の幸せを全力で応援する会社です。だから〇〇さんの幸せを全力で応援するため、今日はみんなで駆けつけました。お招きいただき、ありがとうございます・・・」

涙がこぼれそうになった。「〇〇さんをこのような人間に育てていただいた御両親に感謝申し上げます」本人と御両親にとって最高の褒め言葉である。会社の方はコロナを理由にすれば、断ることもできたはずである。それなのに「お招きいただき、ありがとうございます」上司をはじめ職場の多くの方から愛されていることが伝わる祝辞に当人や御両親だけでなく会場の多くの方が感動したと思う。「私が若かったら、この会社でこの上司の下で働きたい」そう思った。

「この学校で働きたい」と思える言葉を私は発しているだろうか。そんな組織づくりができていだろうか。人を大切にするということについて深く考えさせられた出来事であった。



# 人生は絶対に変えられる！

都城市立五十市中学校 鳥成伸一郎

私は、「人生は変えられる」ということを一つの信念として、関わった子どもたちに伝えてきたつもりだ。幼い頃、私は病弱だった。ひどい扁桃腺炎で、何度も40度を超える熱を出し学校を休んだが、春休みに手術をして健康状態は変わった。でも、今振り返ると、病弱なおかげで悪かったことと良かったことが見えてくる。悪かったことは、病弱のために外で遊ぶ機会や運動をする機会が少なく、ずっと運動することに苦手意識があったこと。私は通知表の5段階で、なんとか3をもらうために、できなくてもまじめにすることだけ心がけてやっと3がもらえるような子だった。

良かったこともあるにはある。それは、家の中で過ごすことが多かったので、字を書いたり、絵本を読んだりしたおかげで、勉強は苦手ではなかった。つまり、物静かで、おとなしくて消極的な、運動が苦手なちょっとだけ勉強のできる子で、どちらかと

いうといじめられっ子でもあった。

小学校6年生の担任の先生が、4月の家庭訪問で、私と母に「私は、この1年間で伸一郎君を変えて見せます。」と言われ、その1年間、私の心の中を見事に見透かして、次々と私はいろんなことに挑戦させてもらった。私の中では様々な変化が生まれ、もちろん、勉強もできるようになった。人前で、堂々と自分の意見を言えるようになり、そして、何より、一番のコンプレックスだった運動の苦手意識が変わり始めた。何でもできるようになるほど甘い物ではなかったが、努力すれば道は開ける。そう教えてもらった。

昨年、縁あって私の人生を変えてくださった先生のお墓の場所をお聞きすることができ、お墓参りは私の恒例行事になっている。



支会だより

## < 西都支会 >

西都市立穂北中学校 伊東泰彦

西都支会は、西都市11校（うち3校が小中一貫校）、西米良村2校の計13小中学校で構成されている。人口減少社会や少子化、都市への人口偏在などにより、妻市街地の3小中学校以外は各学年1クラスの小規模校であり、西都市の中学校については令和8年度に大規模な統合も控えている。統合をにらんだ校則改正や教育課程の再編、更には各地域コミュニティの実情を踏まえた特色ある教育の展開などが各校の課題である。

一方、早くから教育の情報化に取り組んできた西米良村の小中学校は、ICT活用の先進地として西都市をはじめとする県内の各学校にそのノウハウを波及させている。また、西都市内の学校では、小中高の12年間を見通した「さいと学」の再構築に取り組んでおり、地域のリソースを最大限に活用した協働型の探究学習を通して、社会に開かれた特色ある教育活動による「学校を核とした地域づくり」をアップデート中である。

支会全体での研修は年間2回であるが、ここ数年は、上述の「ICT教育」と「地域との協働による教育」を中心に、対話型・参加型の研修を行っている。妻高校との連携も特色であり、同校を研修会場としての学校参観や、高校生と校長会とによる対話型のクロストークを行うとともに、同校オープンスクールに小学生を参加させる取組も行っている。研修では、地域内人材の他、こゆ財団や県のキャリア教育コーディネーター、民間人講師との対話も取り入れ、学校の中からだけでは見えにくい多様な角度からの提言をいただいている。こうした取組を通して、特色ある教育活動の更なる拡充や学校経営の改善に取り組むとともに、できればそれを、本地区に赴任している若手・中堅教職員の人材育成へと還元していけるよう努めたい。



## < 児湯支会 >

川南町立通山小学校 川野敏広

児湯支会は、高鍋町（小学校2校、中学校2校）、新富町（小学校1校、中学校1校、小中一貫校2校）、木城町（小中一貫校1校）、川南町（小学校5校、中学校2校）、都農町（小学校3校、中学校1校）の東児湯5町の小学校11校、中学校9校（小中一貫校3校は中学校籍）で構成されている。本年度は、4名が新任校長として採用、転入、2名が管外から転入し、計20名で組織されている。

本支会では、研究主題「県校長会活動方針に則り本地区の願いと信頼に応えるため、創意と英知をもって鋭意努力を重ねてきた。こうした歴史を踏まえ、新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指し、会員相互の連携を密にして望ましい学校経営を推進し、教育の充実・振興を図る。」のもと、年間1回の総会と5回の研修会を実施している。研修会については、原則、県校長会理事会が開催される月に支会内の5町を持ち回りで会場として実施し、会場町の教育長より講話をいただくとともに、県校長会の情報の共有化や指導内容や

方針の周知徹底、各町校長会の情報共有等を図っている。

4月に、コロナ禍ではあったが、総会を開き、顔合わせとともに役員、事業計画、予算等の確認、協議を行うことができた。研修会も1学期に予定していた2回は中止することなく実施することができた。コロナ、熱中症、働き方改革、ICT活用、学力向上、いじめ、不登校、コンプライアンス違反等、喫緊の課題が山積みの学校現場であるが、研修会で各学校や各町の現状や取組を聞き、協議することが自校への課題解決の手がかりになっている。特に、本支会は、5つの町の学校で組織されているので、各町の多様な現状や取組を聞き、参考にできることが強みであると考えている。今後も、県校長会や各町校長会との連携を密にし、情報の共有化を図り、教育動向の把握や喫緊の教育課題の解決について、組織としての研修を充実させることで、各校での望ましい学校経営を推進していきたい。



## < 都城支会 >

都城市立明道小学校 後藤世志哉

都城支会校長会は、都城市小学校35校・中学校19校、三股町小学校6校・中学校1校、計61の小・中学校で構成される。

校長会の活動の骨子は、研修活動である。小・中共に、年間5回の研修会を実施している。小学校は、人数が多いので、3班集体としており、会場は学校視察を兼ねて、当番学校で実施される。研修内容は、県大会発表内容の協議と時事的課題の協議である。県大会発表について、都城支会では、担当学校だけの研究ではなく、各校の実践を収集し、一つの研究成果にまとめ上げていくことを基本理念とする研究になるように努めている。

中学校は、全校が参集しての開催なので、中学校長会が同時に開催できるメリットがある。小学校は、分散方式なので全員参集の場が取りづらいことが課題である。なお、5回の研修会のうち、2回目の研修会は、小中合同研修会として全校長が一堂に会し、

実施した。内容は、講話と県大会リハーサルである。コロナ禍により2年間実施できなかった本会を、本年度は南部教育事務所長をお招きして実施することができ、充実した時間を共有することができた。

なお、本支会の日頃の情報共有のために、Googleドライブに共有のスプレッドシートを置き、コロナ対策等に関する各校の取組状況について、随時、記載してもらうことにより、スピード感をもった情報の共有が図られている。

都城支会の小・中の各会長が、連携しながら、各校の課題等に対して、スピーディーに反応し、市教委との連携・協議を行うなど、各校の課題の解決が図られるよう努めている。

「校長は孤独な業務だ」と言われることがある。支会校長会が一枚岩となり、お互いに悩みを吐露しながら、支え合っていける組織体でありたいと願っている。

### 編集後記

去る7月28日に開催予定であった県校長会研究大会は、新型コロナウイルス感染症の爆発的な再拡大を受け、内容を変更しての実施となりました。しかしながら、紙上発表による研究発表、オンラインによる講演会等、大変素晴らしい内容で深い感銘を受けました。

さて、ここに校長会広報紙219号をお届けいたします。日之影町教育委員会教育長の橋本範憲様には、御多忙の中、特別に御寄稿いただきありがとうございます。また、西都・児湯・都城支会の執筆者の皆様、集約・校正に当たってくださった各支会の広報委員の皆様方にも感謝申し上げます。

最後に、夏休みが明けて、新型コロナウイルス対策や熱中症対策等に追われる日々をお過ごしの方におかれましては、くれぐれも御自愛のほどお祈り申し上げます。